



9月議会での一般質問

[2021年9月10日]



小平市でも外遊びの推進を

ある調査では、小学校高学年の子どもが外で遊ぶ平均時間は1981年131分→2016年72分と、約1時間も減少しています。コロナ禍での調査では更に減り、2019年61分→2020年35分となりました。子どもの外遊びには、自律神経機能や体力の向上、ストレスや不安の解消、社会適応能力の向上など様々な効果があります。千代田区の「子どもの遊び場に関する基本条例」や、世田谷区の「子ども計画」は、子どもが身近な場所で外遊びができる環境の整備を掲げています。

小平市の施策を聞いたところ、「子どもが外で遊ぶことができる環境は既に整備できている」と、やる気の感じられない答弁でした。市長が市長選で掲げた87の政策には、子どもの自由な遊びを保障するためプレーパークにプレーリーダーを配置することが含まれていますが、実現されていません。早期の実施を求めます。



12月議会での一般質問

[2021年12月2日]



1. 投票率を上げる取り組みと主権者教育について

以前より年配の方から投票所が遠くて行けないという声を複数聞いており、投票所を増やせないか質問しました。市内の投票所はすべて選挙区内の住所から2km以内に配置されているため、増設は考えていないとの答弁でした。2kmの移動は高齢者や歩行が困難な人にとっては容易ではありません。小平市内の27選挙区のうち26区で選挙人が2,000人以上であることから、投票所を増やし、一人でも多くの方が投票できるよう要望しました。

また、政治的リテラシーや政治参加意識を育むための主権者教育については、千葉県立国府台高校での先進事例を挙げ、小平市の模擬投票も実際の選挙に即して行えないのかと聞いたところ、選挙時期は忙しくて難しいとの回答でした。民主主義の基盤である選挙の重要性を真摯にとらえ、主権者教育においても、より一層の取り組みを求めました。

2. 外国籍住民も

暮らしやすい小平市に



小平市内の外国籍住民は一昨年1月時点で5,451人で、外国籍人口の割合は多摩26市で2番目に高い2.8%です。

白梅大学の研究会による意識調査では、回答した外国籍住民の18.2%が、「あなたやあなたの家族が日本の生活で困っていることや不満なこと」として、「日本人からの偏見・差別」と回答しました。思った以上に高い値です。

小平市は原則月1回人権相談を実施していますが、外国語での相談については国や東京都の窓口を案内している、市として外国籍住民を対象とする相談窓口を設置する考えはないという答弁でした。総務省は自治体に多文化共生の推進に関する指針・計画の策定を求

かずえ日記



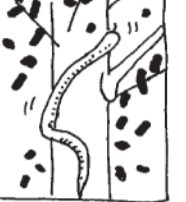
8/8 ピート畑草取り + ブルーベリー摘み

小川町の畑で草取りのお手伝いをした後、隣の畑でブルーベリー摘みをしました。



8/9 玉川上水ミミ観察会

銀杏やヤマボウシの実などを観察。アオダイショウが木の幹を伝っているのを見つけてびっくり。



8/24 生活文教委員会 鈴木意跡視察

鈴木小の向かいにある鈴木意跡資料館などを見学。



8/31 白梅フドポトリー見学

毎月第4月・火曜日に開催。毎回50~80名ほどの学生さん達が利用しているそうです。



10/8 選挙改革フォーラム等主催 「世界の暮らしと選挙制度」

フィンランドは2021年ジェンダーギャップ指数が2位で、首相も女性。大使館の方から、お話を聞きました。



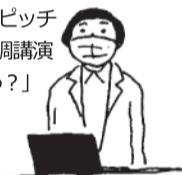
10/16 全国3Rネット主催オンライン映画 「マイクロプラスティックストーリー」

NY市の小学生が、マイクロプラスチック問題について学び、NY市の発泡スチロール容器禁止に至る感動のストーリー。



11/28 2021 K1FAの集い みんなで考えよう小平の多文化共生

YSCグローバルスクールのピッチフォード理絵さんによる基調講演「多文化共生ってなんだろう?」は、多文化共生のあるべき基本を教えてくださいました。



12/26 女性による女性のための相談会

新宿区立大久保公園での相談会には、生活に困難を抱える女性が次々に訪れ、弁護士や自治体議員らが相談に対応しました。



めています。市は2023年度に改訂予定の文化振興の基本方針に多文化共生プランを入れることを検討する、策定に向けては外国籍住民へのヒアリングやアンケートの実施を想定しているとの答弁でした。

一橋大学国際学生宿舎や朝鮮大学校があり、外国籍住民が多い国際色豊かな小平市の特長を活かして、誰もが暮らしやすいまちをつくれる可能性があります。その第一歩として、外国籍住民の様々な必要性に応えられるプランの策定を求めます。

3. 使い捨てのプラスチックを削減するために



コロナ禍の影響で、市内でもプラスチック容器包装ごみが増加しています。東京都は2019年12月にプラスチック削減プログラムを策定し、2030年までに2017年比でワンウェイプラスチックを25%削減し、2050年までに海洋へのプラスチック流出をゼロにすることを目標に掲げました。小平市での取り組みを尋ねると、都のプログラムに区市町村と連携した分別やリサイクルの推進強化も含まれており、まだ具体的な内容が示されていないため、引き続き注視していくとの答弁でした。

しかし、目黒区ではすでに「目黒区使い捨てプラスチック削減方針」を定め、容器包装やスプーン等を木や紙などの素材に変更する事業者への補助や、マイ容器を持参した消費者に1回100円割引する制度を実施しています。沖縄県読谷村でのリユース容器を活用した事例もあり、小平市のイベント用リユース食器の貸し出し制度の拡充ができないかと聞くと、研究するとの回答でした。ぜひ研究だけに留めず、市独自の削減策の作成と実施を早急に進めてほしいものです。